

中国の原子力関係情報

——中国核能行業協会【中国原子力産業協会、CNEA】ホームページより抜粋——
(中文仮訳概要)

2009/2/19 「わが国原子力発電技術設備の自主化 加速」

新華ネット 2月19日：2月4日、国務院は、原子力発電設備の自主化路線の推進を明確にした。

中国核工業集团公司によれば、自主国産化路線は、原子力発電プロジェクトの加速と国家の需要増に対応するため。原子力発電所の建設コスト低下とともに、原子力発電技術の掌握と、電機、冶金、計装設備などの製造業の発展をもたらすという。

大亜湾、嶺澳 1期、2期プロジェクトを通じ、中国はすでに第2世代および改良型原子炉技術とともに 100万kW原子力発電所の建設能力を獲得した。この先数年で、第2世代改良型原子力発電技術設備の国産化率の向上と、第3世代技術の消化吸收を目指している。

90年代に自主設計をスタートし、秦山1期は大部分の設備を国内製造し(ママ)、国産化率は70%以上を達成した。中国機械連合会の分析によれば、最近承認された原子力発電プロジェクトの国産化率は80%以上という。

国産化を進めるため、国家エネルギー局は、第3回技術設備自主化会議にて、「原子力発電技術設備の自主化委託工程管理の方法」を討議し、「自主刷新原子力発電設備を優先的に選択しよう」と提案し、スタートをきった。

2009/2/19 「中国の原子力発電は自主刷新“第2世代プラス”」

中国で建設が承認された9番目の原子力発電所サイトは、福建省福清市。100万kW級原子炉6基。1期工事の1号機、2号機は、総投資額271億元、それぞれ2013年、2014年に商業運転予定。自主設計による「第2世代プラス」PWR。

中国は最近、原子力開発の方針を、「適度に発展させる」から「積極的に推進する」に転換した。この方針転換のなかで、第3世代原子力発電技術を三門、海陽プロジェクトにおいて海外導入するだけでなく、最近批准した一連のプロジェクトに、自主設計の「第2世代プラス」を採用している。(情報源：光明ネット)

2009/2/12 「WANO 会長一行の訪中、協議について」

WANO 東京センターからの連絡によれば、WANO の新会長ローラン ストリッケール氏が2009年3月24日～26日訪中し、中国原産協会その他関係機関のトップと面談予定。

2009/2/12 「IAEA 大臣級会議と同時期に『世界の原子力』展覧会開催」

中国国家原子能機構(CAEA)は「世界の原子力」をテーマとする展覧会を4月20日～22日、国際原子力機関(IAEA)の「21世紀の原子力エネルギー」国際大臣級会

議と同時期、同じく北京で開催する。中国原産協会は展覧会の実施に協力している。

2009/2/17 「中国広東核電設備国産化連合研究センターが正式に設立」

中国広東核電設備国産化連合研究センターが、大亜湾原子力発電基地に設立された。中国広東核工程有限公司の東国剛 総経理が理事長に就任。(情報源：中国広東核電集团公司)

2009/2/7 中国原産協会 張華祝 理事長、全国エネルギー工作会議に参加

「全国エネルギー工作会議」が2月3日～5日、17年ぶりに北京で開催され、中国原産協会 張華祝理事長、中国核工業集团公司、中国核工業建設集团公司、中国広東核電集团有限公司、中国電力投資集团公司、国家核電技術公司、中国華能集团公司、中国第一重型機械集团公司などの関係企業トップも参加した。

国家エネルギー局 張国宝 局長は、「エネルギー開発方式を転換し、構造調整を進め、安定経済とクリーンで安全なエネルギー供給体制を構築する」と報告した。また、次のように総括した。「2008年は原子力発電建設の最も進んだ年であった。福建省寧徳、福清、広東陽江、方家山の4原発プロジェクト計14基の100万kW原子炉を承認した。現在の原発設備容量は910万kW、建設中2,290万kW(ママ)。秦山、広東大亜湾、江蘇田湾は3大基地となった。原発設備の国産化を進め、自主技術100万kW級原発の鍛造品の供給を開始した。蒸気発生器はすでに供給した。海外ウラン開発を進めた。」2009年の計画については、「エネルギー需給が比較的緩和されることから、構造調整に都合よい。クリーンエネルギー開発を進め、石油、天然ガス、水力発電、原子力発電、風力発電等の消費レベルを引き上げる。原子力発電開発を進める。」

2009/2/06 「李克強 エネルギー産業の加速を強調」

新華社2月5日、李克強 中国共産党中央政治局常務委員、国務院副総理は、4日、全国エネルギー工作会議で、「エネルギー供給を保証するため、エネルギー効率を上げ、エネルギー産業を発展させ、エネルギー構造調整を進め、それにより経済社会の良好で迅速な発展をうながす」と強調した。

2009/2/5 「全国エネルギー工作会議 今年の8つの重点プロジェクトを決定」

国家エネルギー局成立後、初の「全国エネルギー工作会議」が北京で開催された。国家発展改革委員会副主任、国家エネルギー局局長の張国宝氏は、2009年の重点プロジェクトを強調した。

- ① 電力産業構造の調整(原子力発電の大幅開発)
- ② 石炭資源の調整
- ③ 国際エネルギー協力の強化
- ④ 再生可能エネルギー、新エネルギーの開発
- ⑤ 省エネ、技術設備の改良
- ⑥ エネルギー法体系の整備とプロジェクト研究

- ⑦ エネルギー産業管理の強化
- ⑧ エネルギー管理指導層の強化 (情報源：人民ネット)

2009/2/3 「原子力発電の中長期開発」

国家エネルギー局関係者によれば、同局には原子力発電の中長期開発計画を改定し、2020年の運転中設備容量は7,000万kWに、建設中容量は3,000万kWにすべきとの意見がある。現在の「中長期原子力発電計画(2005-2020年)」の目標は、「2020年に運転中4,000万kW、建設中1,800万kW。」(情報源：21世紀経済報道)

2009/2/3 「3年後に遼寧の原子力発電コストは火力発電の1/3に」

(情報源：中国電力ネット)

2008-12-18 「『中国の原子力法規集』編纂に関するお知らせ」

中国核科学技術データ・経済研究院は、「中国原子力法規集」を編纂した。これは、改革開放以来、全人代常務委員会、国務院、関係省委員会局の公布した原子力関係の法律、法規、各部門の規程などをまとめたもの。法律、法規、規程は155。16冊、600頁超、1冊150元。

(以上)